第7回 ボッチャ渋谷カップ

BOCCIA SHIBUYA CUP

大会規定ルールブック

ちがいを
ちからに
変える街。

渋谷区
Shibuya City

目次

1. 試合時の心構え・・ P2

2. コートレイアウト・・・ P2

3. 試合形式・・ P3～4

4. リーグ戦における順位決定方式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5

5. 試合の進め方・・・ P6～8

6. プレイ中のルール・・・ P8～9

7. 得点の計算方法・・ P9

8. ファイナルショット制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P10

9. 反則行為・・ P10

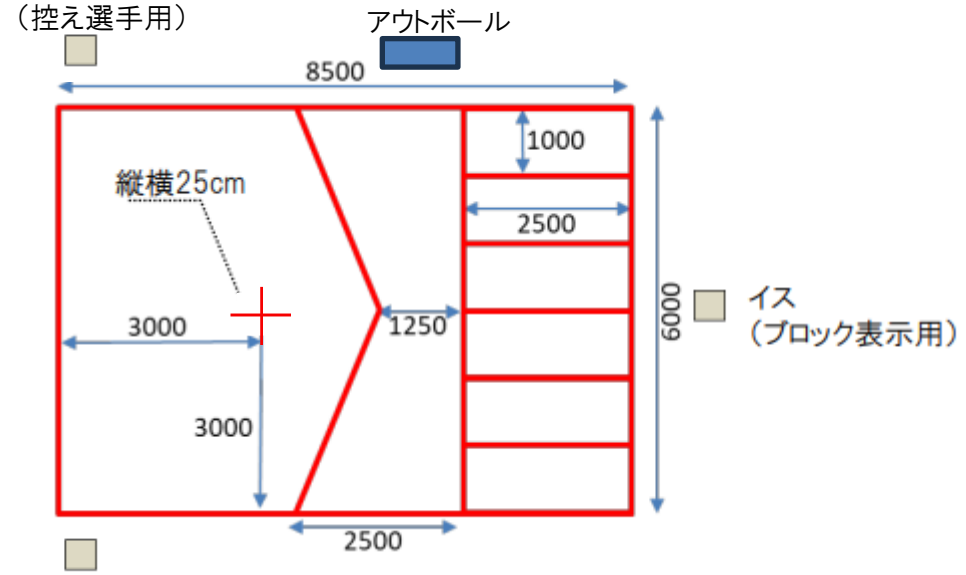
10. その他・・・ P10

1 試合時の心構え

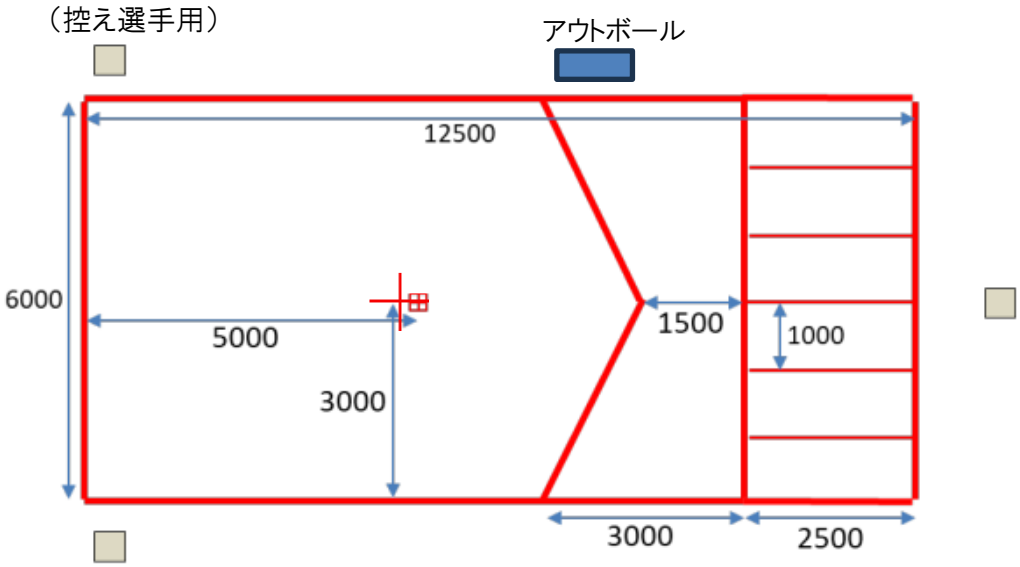
ボッチャの競技を行う際の心構えは、敵・味方関係なく良いプレイは称賛し、ミスを責めるような言動は、選手・観客全てにおいて控えること。

2 コートレイアウト

【 予選リーグおよびベスト8決定戦～準決勝のコートレイアウト 】



【 3位決定戦および決勝戦のコートレイアウト 】



※コートはラインテープ（赤）で表示

※試合中、選手はスローイングボックスの後ろにいること

※控え選手はコート横の椅子に着席すること

3 試合形式

【1】試合方法

・予選は、80チーム(4チーム×20グループ)によるリーグ戦とし、各グループ1位のチームに加えて2チームが決勝トーナメントに進出する。
※リーグ戦における順位決定方式についてはP4～5参照。
※試合方法は運営の都合上変更になる場合がある。
・予選および決勝トーナメントとなる試合は、2エンドマッチで行う。
決勝戦のみ、4エンドマッチで行う。
・エンド終了後、同点だった場合はファイナルショット制度を実施する。
※ファイナルショット制度はP9参照。

【2】表彰

・優勝、準優勝、3位、敢闘賞を表彰する。
・優勝チームには、下記の特典が与えられる
①2027年3月6日(土)・7日(日)に開催される「BOCCIA JAPAN CUP 2027」の出場権
②2027年に秋田県大館市で開催予定の第8回「はちくんオープン」の出場権
③第8回ボッチャ渋谷カップの出場権
（渋谷区内在住・在勤・在学で構成されるチームのみ）
※優勝チームが辞退した場合には次点のチームが繰り上がることとする。

【3】キャプテン（代表者）の役割

・各エンド、コート内に必ずキャプテン（代表者）となる者１名を配置すること。
・キャプテン（代表者）は、使用するボールの色の決定／ファイナルショット投球順のジャンケン/エンド終了後の得点の確認を行う。
・審判への相談・得点の協議を行う。
※キャプテン以外の方からの相談は原則不可とする

【4】チームの構成

・試合は3人1組で構成されたチームにて行われる。
・各チームは試合に出場する3人1組に加え、控え選手を1名まで用意することができる。
・控え選手はエンドとエンドの間に一度だけ交代することができる。
その場合、交代する選手は交代される選手と同一のスローイングボックスに入ること。

【5】コミュニケーション

・試合中は審判の指示に従うこと。
・エンド中審判が投球を指示したチームの選手のみ、コートでチームメイトとコミュニケーションをとることができる。ただし、コートにボールを持ち込んではいけない。
・投球を指示されてないチームは、スローイングボックス内にて投球者の妨げにならない位置にて静粛にし、チーム内でのコミュニケーションをとってはならない。また、ボールに触ってはいけない。
・コミュニケーションをとる際、相手チームのスローイングボックスを横切ったり、スローイングエリアの中でのコミュニケーションをとってはならない。
・コート上の選手は、エンド中にコートの外部からいかなるコミュニケーション（通信、口頭、合図）もとってはならない

【6】各チームの持ち時間

・当大会において、準決勝以前は持ち時間（タイマー）は設けないが、試合時間短縮のために審判がスムーズな進行を呼びかけることがある。
・準決勝以降は下記のようなルールとする。
・ジャックボールを含めた各チームの投球時間の合計は、1エンドあたりそれぞれ5分間とする。
・制限時間内に投球できなかったボールは全て無効となり、そのエンドで投球できなくなる。
・各チームの持ち時間は、ジャックボールの投球も含めて、審判が投球を宣告した時点でカウントダウンをスタートする。
・各チームの持ち時間は、投球したボールがプレイングエリア内に停止した瞬間、またはプレイングエリアから出た瞬間に止められる。
・タイマーは持ち時間が残り「2分」、「1分」、「30秒」、「10秒」となった時点で、それぞれその旨を該当チームに宣告する。
・エンドとエンドの間の準備時間は1分とし、タイマーは残り「15秒」となった時点で、その旨をチームに宣告する。

4 リーグ戦における順位決定方式

【1】決勝トーナメントに進出するチーム

・各リーグの1位に加えて12チーム、計32チームが決勝トーナメントに進出する。
※勝ち数が多いチームを上位とする。
・各リーグ2位の中で決勝トーナメントに進出する上位12チームは、下記の順で決定する。
① 勝ち数が多いチーム
② 得失点差が大きいチーム
③ 総得点数が高いチーム
④ ジャンケンによる勝者

【2】各リーグの順位の決め方

・2チームの勝ち数が並んでいる場合は、下記の順で順位を決定する。
① 得失点差が大きいチーム
② 総得点数が高いチーム
③ 直接対決の勝者
・3チームの勝ち数が並んでいる場合は、下記の順で順位を決定する。
① 得失点差が大きいチーム
② 総得点数が高いチーム
③ 直接対決の勝者
④ ジャンケンによる勝者
※①、②を確認した上で、2チームが並んでいる場合は③により決定する。
※①、②を確認した上で、3チームが並んでいる場合は④により決定する。

【3】試合の棄権について

・チームが試合を棄権した場合、棄権したチームは不戦敗とし、その相手チームは不戦勝とする。
・上記の場合、不戦敗となったチームには負け数を「1」、不戦勝となったチームには勝ち数を「1」とし、得点は「2-0」とする。

5 試合の進め方

【1】集合時間

・チームは各試合開始5分前に、試合を行うコートに集合する。

【2】使用するボールの色の決定

・各チームのキャプテンによる「ジャンケン」で勝った方が、使用するボールの色（赤または青）を決定する。

【3】投球位置への配置

・選手は、コートに向かって左から、赤、青、赤、青、赤、青の順のスローイングボックスでプレイする。

※試合中、選手はスローイングボックスを変更してプレイすることはできない。

【4】ウォームアップ

・各チームはそれぞれのスローイングボックスに移動し、審判から指示が出されたら、各チーム3人同時に2球ずつ投球練習ができる。

・ジャックボールは、各チーム持参のジャックボールを使用すること。

※持参したボールがないチームには、大会事務局のボールを貸し出すこととする。

※両チームともにボールを持参していない場合は、大会事務局のボールを使用し、ジャックボールはクロスに置き、両チームが同時に投球練習を行う。

【5】試合開始

・試合は各コート同時にスタートを原則とする。

・試合開始前に【2】～【4】を終わらせること。

・審判からの開始指示に従って、試合を開始する。

【6】ジャックボールの投球

・各エンド、ジャックボールを投球する先攻チームの選手は、審判からジャックボールを受け取り、投球指示を待つ。

・各エンド、ジャックボールの投球は、各チーム任意の選手が行う。
・審判からのジャックボール投球の指示を受けた後、各エンド、先攻のチームの選手はジャックボールをコート内の任意の箇所に投球する。
・投球されたジャックボールが無効エリアもしくはコート外で静止した場合は無効となる。（ラインに触れている場合も無効とする）
・無効となった場合、ジャックボールの投球権は相手チームに移ることとする。この場合、投球権が移った相手チームによるジャックボールの投球は、投球回数に含まないこととする。ジャックボールが有効にコート内に投球されるまで交互に投球する。

【７】第1球目の投球（先行チームの第1球目）

・ジャックボールがコート内の任意の箇所に投球できた場合、ジャックボールを投球した選手がそのままカラーボールの第1球を投球する。
・第1球目がコート外で静止した場合（ラインに触れている場合も含む）は、同じチームの任意の選手がカラーボールをコート内に停止するまで投球する。

【８】第2球目の投球（後攻チームの第1球目）

・ジャックボールを投げたチームがカラーボール1球を投球できたら、相手チームの任意の選手がカラーボールの第1球目を投球する。
・第1球目がコート外で静止した場合（ラインに触れている場合も含む）は、同じチームの任意の選手がカラーボールをコート内に停止するまで投球する。

【９】第3球目以降の投球

・両チームのカラーボールが投球されたら、ジャックボールに対してより遠い位置にあるボールを投球したチームに審判が投球指示を出す。（どの選手が投球するかについては、チーム内で相談して決めてよい）
・ジャックボールに対しての遠近の配置が入れ替わったとき、投球するチームも入れ替わる。
・この手順は、投球するべき手持ちのカラーボールが全て投げ終わるまで行われる。
・どちらかのチームが全てのカラーボールを投げ終わった時、カラーボールが残っているチームは継続して投球するか、または終了を宣言できる。

【１０】エンドの終了

・両チームが全てのカラーボールを投げ終わった時、審判は得点を計算し、エンドの終了を宣言する。 ※得点の計算方法についてはP8参照

【１１】エンドとエンドの間

・各チームはカラーボールの回収を行う。
・エンドとエンドの間の準備時間は1分とし、1分が経過した時点で次エンドを開始する。
・交代選手がある場合は、エンド間にキャプテン（代表者）から審判に申告すること。
・控え選手はエンドとエンドの間に一度だけ交代することができる。その場合、交代する選手は交代される選手と同一のスローイングボックスに入ること。

【１２】次エンドの実施

・第2エンドでは、ジャックボールを青チームのジャックボールを投球する選手に手渡し、以後は第1エンドと同じ手順で行われる。

6 プレイ中のルール

【1】ボールの投球

・審判からの開始指示、またはどちらかのチームの投球順かを指示するまで、ボールに触れることはできず、いずれのボールも投げてはいけない。また、ボールは投球する選手のみ触ることができる。
※ボールは指定の位置に置いておくこと。（車椅子を使用する選手はこの限りではない）
・ボールをリリースする時は、スローイングボックスから出てはいけない。また、スローイングラインに触れてはいけない。
※上記規定に違反した場合の対応についてはP9参照

【2】アウトボール（コートから出たボール）の扱い

・全てのボール（ジャックボールを含む）は、コート外周のラインに接触または越えた場合、アウト（コートの外に出たもの）とみなされる。
・コート外周のラインに接触または越えた後、再びプレイングエリアに入ったボールはアウトとみなされる。

【3】アウトになったジャックボールの扱い

・ジャックボールがプレイングエリアの外またはジャック無効エリアに弾き出された場合、ジャックボールはクロスの上に置き直される。
・すでにクロスの上にボールがありジャックボールを置けない場合、ジャックボールはクロスの前面のできるだけ近い位置に置く。
その時、ボールの中央が両方のサイドラインから等距離になるようにする。

・ジャックボールがクロスの上に置き直された場合、ジャックボールに対してより遠い位置にあるボールを投球したチームから投球する。
・ジャックボールがクロスの上に置き直された時、プレイングエリアにカラーボールがひとつもない場合、ジャックボールを弾き出したチームが投球する。

【4】等距離にあるボールの扱い

・2球以上の異なる色のカラーボールがジャックボールから等距離にあり、さらに両サイド同得点（1:1、2:2など）という状態の場合、最後に投球したチームが再び投球する。その後、その等距離状態が崩れるか、片方のチームがすべてのボールを投げ切るまで、両チームが交互に投球する。
・新たに投球されたボールが等距離状態を崩したが、別の等距離になった場合、最後に投球したチームが再び投球する。

【5】ドロップボール

・選手がボールを誤って落としてスローイングラインを越えない場合、そのボールは改めて投球することができる。

【6】アシスティブデバイス（補助具）を使用する選手およびアシスタントについて

・選手およびアシスタントの規則については、「日本ボッチャ協会競技規則2025-2028 v.1.0」を準用する。

7 得点の計算方法

・両チームが全てのボールを投球した後、審判が得点計算を行う。
・ジャックボールに一番近いカラーボールのチームには、相手チームのジャックボールに一番近いボールよりもジャックボールに近いカラーボール1球につき1点が与えられる。
・異なる色のカラーボールが2球以上ジャックボールから等距離にあり、それよりもジャックボールに近いカラーボールがない場合、各チームに1球につき1点が与えられる。
・各エンド終了時、得点係の審判はスコアシートに得点を記入する。キャプテンは責任をもって、記録された得点が正しいかどうかを確認する。
・最終エンド終了時、各エンドの得点を合計し、合計得点の高いチームが勝者となる。
・計測が必要な場合や判定が困難な場合、審判は両チームのキャプテンをコートに呼ぶ場合がある。なお、最終的な判定は審判に一任される。

8 ファイナルショット制度

・最終エンドを終えて合計得点が同点だった場合、ファイナルショット制度を実施する。
・投球選手は最終エンドに出場していた選手の中から決めなければならない。
・投球することが決まった選手は、当該投球選手が最終エンドで使用したスローイングボックスから投球しなければならない。
・各チームで投球する選手を決めて審判に報告したのち、投球順は、ファイナルショット前にジャンケンで決められ、先に投球するチームのジャックボールが使用される。
・ターゲットボックス中央のクロス（十字）にジャックボールを配置し、各チーム1球ずつ投球してジャックボールにより近いボールを投球した方を勝者とする。
・ファイナルショットの得点は、その試合の得点に加算されず、勝敗の判定のみに使われる。

9 反則行為

・本大会では決勝戦および3位決定戦以外の試合において、反則行為を厳しくとることはしない。ただし、以下の場合は審判が注意する。
① スローイングラインを踏んだり、越えたりしながら投球した場合
② スローイングラインの外に手やボールを置いたりした場合
③ 審判からの投球指示前にボールを投げてしまった場合
④ 相手チームの選手の集中や投球動作に影響を及ぼすような、故意の妨害や気を散らす行為をした場合
⑤ 審判の決定に従わない場合
⑥ランプオペレーターがプレイエリアを見ていた場合
・決勝戦および3位決定戦においては、以下の対応とする。
①、②、③について、投球したボールは無効とし、リトラクション（ボール除去）の罰則を受ける。
④、⑤、⑥について、審判が「改善が認められない」と判断した場合、審判長と協議のうえ、イエローカードを提示する。同一試合中に2枚のイエローカードを提示された選手は、当該試合から退場となり、当該選手が投げる予定だったボールは没収される。

10 その他

競技を行う上で、この規則にない状況があった場合、全てその大会主催者の判断が尊重される。

第6回 ボッチャ渋谷カップ